

実 施 記 録



1. 日 時 平成 28 年 3 月 26 日 (土) 13 : 30 ~ 14 : 20
2. 年 組 広島大学附属東雲中学校 第 1 学年 1 ・ 2 組 23 名 (男子 10 名, 女子 13 名)
3. 授業者 伊藤 宗憲 先生 (呉市立郷原中学校)
4. 単 元 資料の活用
5. 本時の目標 多数回の試行や資料から, ある事柄の起こる相対度数の理由を考えることができる

学習過程	学 習 活 動	指導上の留意点 (◆評価)
導入 (10 分)	□カップを使ったクイズを演示する。	
3つのカップのうち, 1つのカップには当たりのボールが入っており, 残り2つは空ではずれである。 回答者が1つのカップを選び, 出題者が残りの2つのカップのうち, はずれのカップを提示する。 → 「はじめに選択したカップのままでも結構ですが, カップを変更してもかまいませんよ。」 [クイズ] 回答者はカップを変えるべきでしょうか。		
展開 (35 分)	<input type="checkbox"/> 答えを予想する。 <input type="checkbox"/> どのように調べるか考える。 <input type="checkbox"/> ペアで試行を繰り返し, 記録をとる。 <input type="checkbox"/> 全体で集計する。 <input type="checkbox"/> 答えを確認する。 <input type="checkbox"/> 理由を考える。 <input type="checkbox"/> 考えた理由を発表する。	<input type="checkbox"/> クイズの演示から予想させる。 <input type="checkbox"/> 予想を確かめる方法も考えさせる。 <input type="checkbox"/> 回答者に当たりカップを伝えないよう注意する。 <input type="checkbox"/> 黒板に試行結果を記入させる。 <input type="checkbox"/> 相対度数についても確認する。 ◆理由を自分なりに考えることができているか。 <input type="checkbox"/> 小黒板に記入させ, 全体で共有させる。
まとめ (5 分)	□本時の学習内容と 今後の学習のつながりを聞く。	○起こりやすさの相対度数は, 確率の考えにつながることを伝える。

【協議会】(14 : 40 ~ 16 : 30)

1. はじめに 2. 授業者から
3. グループ協議 進行：岡寺裕史指導主事 (廿日市市教育委員会)
 田頭かおり指導教諭 (広島市立観音中学校)
 - ・ タブレット撮影した授業場面をもとにふり返る
 - ・ 教材提示や課題探究のさせ方の視点から意見交流
4. 講話 「ひろしま型カリキュラムから学ぶ」
 広島大学附属東雲中学校 副校長 佐伯 陽 先生
5. おわりに / 諸連絡 (東雲中学校：天野, 河寄)



【参加者 (敬称略) 22 名】

- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| 岡寺 裕史 (廿日市市教育委員会) | 山本 光信 (広島大学附属東雲小学校副校長) |
| 家本 一郎 (広島市立安西中学校長) | 砂原 徹 (広島大学附属中・高等学校副校長) |
| 石角 剛 (呉市立郷原中学校長) | 田頭 かおり (広島市立観音中学校指導教諭) |
| 甲斐 章義 (広島大学附属福山中・高等学校) | 青谷 章弘 (広島大学附属中・高等学校) |
| 小林 奏美 (廿日市市立吉和中学校) | 伊藤 宗憲 (呉市立郷原中学校) |
| 大田 研人 (東広島市立中央中学校) | 松井 善行 (呉市立昭和中学校) |
| 出張 幸雄 (東広島市立もみじ中学校教頭) | 奥本 実 (広島県立広島中・高等学校指導教諭) |
| 川口 あけみ (広島市立美鈴が丘中学校) | 中井 道治 (広島市立大塚中学校) |
| 吉田 修久 (広島市立瀬野川中学校) | 亀井 将太 (広島市立国泰寺中学校) ほかに学生・本校職員 4 名 |